

竹島問題どっへやら

韓国・原州^{ワシシ}市で10月末に開かれた国際ウォーキング大会にことしも鳥取県から倉吉市のNPO法人未来（岸田寛昭理事長）や同NPOが募った人たちが参加した。一行に同行し、現地での交流の様子を取材した。（中部本社・吉浦雅子）

韓国・仁川空港から、原州の年間を通じバスで約2時間。田舎での一大イベント。これを想像していた原州は、とては10月27、28の2日間3車線の道路も整日間にわたって開催され、紅葉したイチョウ並木が美しい人口20、30、50万の5コースを設定している。

「原州国際ウォーキング大会」はことしで10回目を迎えた。専用タジヤムも整備さ

者も含め28人がそれぞれ

韓国のウォーキング大会に参加

民間交流、深い絆

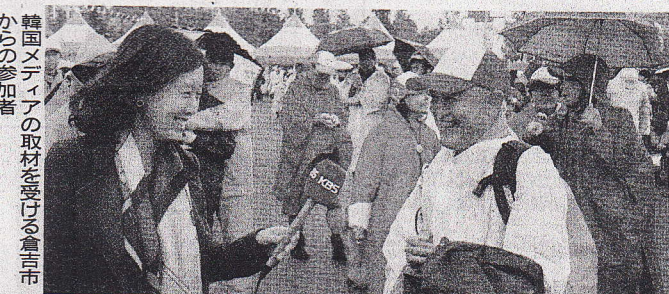


れの体力に合わせたコースを選んで参加し

だが、27日は雨と強

風の大荒れの天候。「こた参加者も多かった。んな天気は初めて」と9回連続参加している経験者。ポンチョやかると同行の男性かつぱに身を包み50キロから「小学生の参加も多しから順次スタートいから、積極的に話した。記者は無難に10かけて交流したらいいキを選択。荒天のためよ」とアドバイスされ20キロから10キロに変更したが、雨の強さに下を

元気よく出発する岸田理事長（手前中央）ら



韓国メディアの取材を受ける倉吉市からの参加者

向いてひたすら歩くの若者ばかりで、「ウォを修正した。み。ときおり周りを見ーキングといったら年まちなかから田園地ると、高校生のよつな配者」というイメージ帯、再びまちなかへと



「倉吉を愛する会」による歓迎会。ウォーキングへの思いを語りつつ夜は更けていった。

足の付け根に痛さを感じながら「雨ニモ負ケズ」約2時間半で完歩。先に到着していたメンバーや現地の人でつくる「倉吉を愛する会」の人々が笑顔で迎えてくれた。

その夜は「愛する会」主催の歓迎会。通訳を交えながら参加者らは大盛り上がり。竹島問題はどっへやら。同会は2010年に原州から倉吉市まで歩いた「日韓ピースウォーク」をきっかけに結成された。国の壁を越えた民間レベルの交流に絆の深さを感じた。記者が帰路についた28日は快晴。「もう一度歩いて、自分だけの交流をしたいな」と後髪を引かれる思いで原州を後にした。